

聖書文語私譯

約翰傳第二章冒頭

高田 友

二日を經、ガリラヤのカナにて、婚禮の催さるるあり。イエズスの御母、彼處におはします。イエズスも門徒とともに招かれ、宴席に赴き給ふ。已而、酒盡きたり。御母、イエズスに告げて仰せありけるは、「御酒、悉皆無之候」と。

イエズス曰く、「母者、我が時未だ到らざるに、何をか強ひ給ひ候」。

然りと雖も、御母、下人を招きて仰せらるるは、「彼の者の下知有之候はば、如何様ならんとも異を立て候こと勿れ」。

茲に、ユダヤ人割禮の式を行ふ折に用ゐる甕六つあり。各々、水百リットルを入るるに足る。イエズス、下人に向ひて曰く。「水を汲み、以て甕を満し候へ」。

據りて、水を注ぎしかば、漸く甕に満ちて、將に溢れんとす。

イエズス、また曰く、「汲み候て、宴席に送るべし」。

就ち、宴席に齎しむ。宴の采配を揮ひたる長者、酒に變じたる水を嘗め、其の何處より來れるを知らず。(汲みたる下人の知れるのみ)。長者、新郎を召し寄せ、問ひて曰く、「人皆、先に良き酒を出し候て、客人呑み足り、酔ひ候に及びて、片秀の酒を飲ましむるに非ずや。然而、今、宴將に果てんとするに及び候て、汝の響ひ候ふ酒の何ぞ此くは美き」。是即ち、イエズスの顯し給ひし第一の奇蹟なり。ガリラヤはカナの町にて行ひ給ひける。是に於て、イエズスの榮光耀けるに依りて、門徒悉く主を信じたり。

過ぐるること久しからずして、イエズス、御母と兄弟と門徒を伴ひ、カペナウムに到り、數日留まり給ふ。

(令和元年八月二十七日受附)

